

女官の勤務評定に使われた木簡

年須壳 年五十九 日参佰弐拾玖
左

[坊
カ]

長さ(一六五)mm・幅(二五)mm・厚さ八mm



(赤外)



平城第621次調査 基幹排水路SD2700(北から)

二〇二〇年度の平城第六二二次調査では、内裏と東方官衙地区の間を流れる基幹排水路SD二七〇〇から、六〇〇〇点以上の木簡が出土しました。中でも注目されるのが、女官の勤務評定に使われた木簡です。

役人の勤務評定をおこなう際には、一人につき一枚の木簡を作成して、事務作業をおこないます。

これまで、男性役人の勤務評定に関わる木簡やその削屑は多数出土していますが、女官の勤務評定の木簡がみつかったのは、初めてです。

冒頭の「牟須壳」が役人の名前で、「壳」(〃め〃女)が末尾に付くことから女性とわかります。

割書き右行の「年五十九」は年齢。女官は若くして出仕したと推定され、五九歳の「牟須壳」は、かなりのベテランであつたとみられます。

その下の「日」は昼間の勤務の意味で、「參佰弐拾玖」(〃三百二十九)は一年間の勤務日数。木簡に見える男性役人の勤務日数は、年間三〇〇日を超えることが少ないという実態があきらかになっています。年間三二九日の勤務は、かなりのハードワークといえそうです。

今後も同様の木簡がみつかり、女官の勤務実態があきらかになっていくことが期待されます。

(都城発掘調査部 桑田訓也)

高松塚古墳壁画男子女子群像 「乾拓」体験イベント

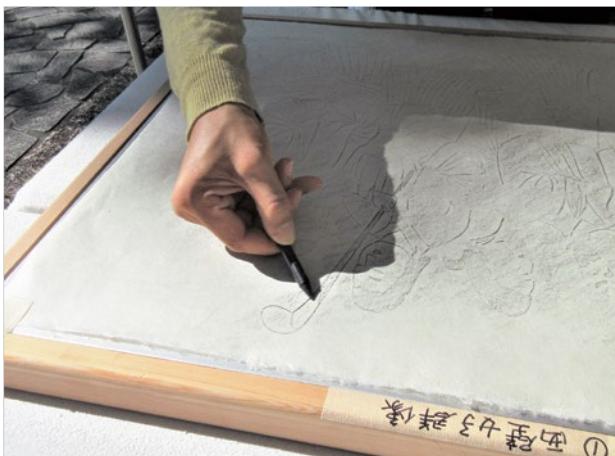
10月15、16日の土日に国営飛鳥歴史公園館前にテントを設置し、高松塚古墳壁画男子・女子群像の「乾拓」体験イベントを開催しました。これは高松塚古墳壁画修理作業室の公開（第39回）にあわせて、国営飛鳥歴史公園と奈文研が主催したものです。

奈文研ではこれまでに高松塚古墳とキトラ古墳のすべての壁画の乾拓板を製作しています。この乾拓板は壁画の図像を原寸大で陽刻した板の上に紙を乗せて、鉛筆等でこすって絵を写し取るもので、ステンレス製の板に高さ0.1～0.2mmの線が付けられています。

高松塚古墳壁画の人物像は、男子、女子群像とも、西壁と東壁の両方に描かれていて合計4枚あります。今回はこれらの乾拓板を用意しました。また、乾拓に用いる紙には、「和紙の里 吉野」でつくられた手書き和紙を使用しました。参加費は1枚につき300円です。乾拓が完成した後には、練り朱肉を使って飾りの落款印を添えました。

当日は秋晴れで気持ちの良い気候にも恵まれ、15日には23名、16日には33名という多くの方々が参加しました。体験されたお子様たちからは、「面白い」「塗り絵みたい」、大人の方々からも、「夢中になる」「いいお土産になった」「壁画はこんなに大きかったのか」「残っている部分と消えてしまった部分がよくわかる」等の感想が寄せられました。

このようなイベントは今後も開催する予定です。また、キトラ古墳には、キトラ古墳壁画の乾拓板が墳丘前の屋外に常設されています。ぜひ一度乾拓を体験してみてください。（文化遺産部 中島 義晴）



西壁女子群像の顔の周りが出てきた様子

次世代に文化財をつなぐためご支援を！－文化財保存修復研究基金－

この度、「奈良文化財研究所 文化財保存修復研究基金」の寄付箱が平城宮跡資料館・藤原宮跡資料室・飛鳥資料館の3ヵ所に設置されました。被災文化財の救出と保存事業、国際協力事業、発掘調査報告書の電子化と公開事業、木簡の保存処理事業、歴史災害痕跡データベース事業の5分野への支援として、広く寄付を募るものです。平城宮跡資料館の寄付箱には楽しい仕掛けも設けてありますのでぜひお試しください。なお、Webから寄付ができる国立文化財機構寄付ポータルサイトもあります。

飛鳥資料館、平城宮跡資料館では「なぶんけん応援ガチャ」（1回200円）も始めました。売上は上記基金として活用します。平城宮跡資料館では出土遺物や、公式キャラクターのキュートぐみ缶バッジ、企画展の期間限定グッズほか、図録等の当たりが出ることも。飛鳥資料館では飛鳥の古墳や寺院の出土品、富本銭、須弥山石等8種類のピンバッジです。

ここでのみ入手できる缶バッジやピンバッジを手に、モチーフになった展示品を資料館で探すのもおすすめです。皆様のご協力をお待ちしています。

（企画調整部 岩戸 晶子・飛鳥資料館 清野 陽一）



平城宮跡資料館に設置された寄付箱とガチャマシン



飛鳥資料館のガチャアイテムのピンバッジ